

株主通信

第67期 第2四半期

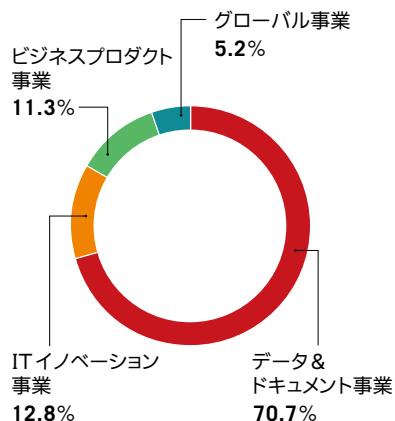
2020年4月1日～2020年9月30日



連結業績ハイライト 2020年4月1日～9月30日

* 通期の業績は予想値

■ 売上高構成比

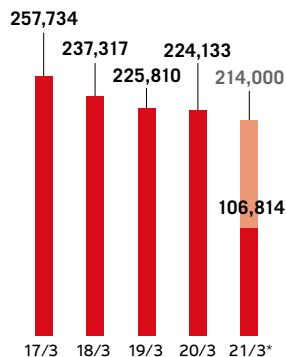


■ 売上高 (百万円)

106,814

百万円

(前年同期比5.3%↓)

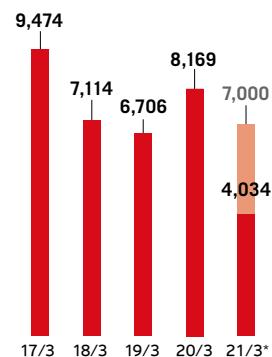


■ 営業利益 (百万円)

4,034

百万円

(前年同期比4.4%↓)

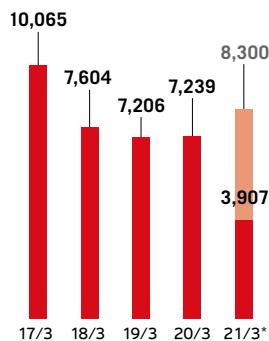


■ 経常利益 (百万円)

3,907

百万円

(前年同期比7.3%↓)

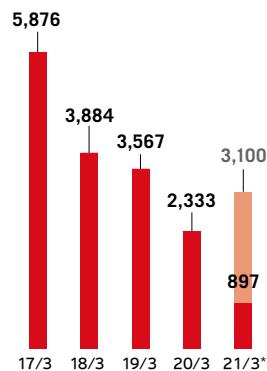


■ 親会社株主に 帰属する四半期 (当期) 純利益 (百万円)

897

百万円

(前年同期比57.8%↓)



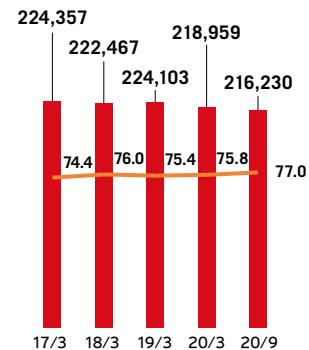
■ 総資産 (百万円)

216,230

百万円

■ 自己資本比率 (%)

77.0%



■ 総資産 ■ 自己資本比率

CXの向上を目指す研究・共創スペース「LABOLIS X」をオープン

当社は、CX（顧客体験：カスタマーエクスペリエンス）に関する独自の研究・共創・実証を行っていく場として、研究・共創スペース「LABOLIS X（ラボリス クロス）」を2020年9月、東京・汐留のトッパンフォームズビルにオープンしました。

CXの重要性

企業や自治体とその利用者の接点において、当社では「情報」を軸に利用者にとって最適なCXを創出するためのサポートを行ってきました。

例えば申込用紙が複雑で、記入ミスをしてしまったという経験はありませんか。当社ではこうした企業のコミュニケーションツールに関する課題を解決し、サービスの向上に貢献するため、申込書に記入する際の視線の流れを計測・分析することで、利用者の方の負担を軽減する分かりやすい申込書への改善などを行ってきました。視線の流れがスムーズになり、重要な部分がじっくり読まれるようになったことで、記入不備の減少につながっています。



企業や自治体・研究機関とのコラボレーションを加速

このたび開設した「LABOLIS X」は、協業いただける企業等との対話を行うスペースを備えているほか、視線計測・脳波計測・感性計測など科学的にユーザー調査を行う環境が整っています。

今後はCXに関する独自の研究をさらに推進するほか、企業や自治体・研究機関などとの協業を加速させ、実効的な取り組みを行っていきます。また、情報提供の場として定期的なワークショップやセミナーも開催していく予定です。



視線計測を実施し、読者にとっての見やすさを数値化

CXとは？

商品やサービスの性能・価格だけでなく、それらを通して得られる満足感や喜びなど、顧客の感情や経験を重視する概念です。他社との差別化のためにも、いかに顧客目線のサービスを提供できるかという点が昨今重要になっています。



こちらからエリアマップや360度バーチャルビューをご覧いただけます。



デジタルハイブリッド企業として 社会のニーズに応えてまいります

株主の皆さまには、平素より格別のご支援ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第67期第2四半期連結累計期間(2020年4月1日～9月30日)の決算が終了いたしましたので、ご報告申し上げます。

当第2四半期の経営環境

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、世界規模で拡大する新型コロナウイルス感染症が個人消費や企業活動へ大きく影響し厳しい状況となりました。引き続き新型コロナウイルス感染症や金融資本市場の変動を注視する必要があり、世界経済においても断断を許さない状況にあります。

当社グループは、消費活動および企業活動の停滞やそれに伴う経費削減の徹底と需要構造の変化による紙媒体の減少、人件費の上昇などにより、厳しい状況に直面しています。一方で、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進や

非対面型ビジネスモデルの広がりなどによる新たな需要が見込まれることに加え、足元では経済対策関連施策に伴う案件も顕在化しています。

当第2四半期の業績

このような経営環境のもと、当社グループは「デジタルハイブリッド(紙と電子の二刀流)」を軸とした成長戦略の実行と、グループ全体の構造改革に継続して取り組みました。具体的には、ビジネスフォーム(BF)の生産効率の向上や、カード製品およびICタグ・ラベルなどのIoT関連製品の生産能力増強を目的に新設した袋井工場(静岡県)が本格稼働しました。

以上の結果、ビジネスプロセスアウトソーシング(BPO)の拡販などにおいて進展が見られた一方、BFにおける改元に伴う需要の反動減やデータ・プリント・サービス(DPS)における電子化の影響、カード関連・サプライ品の縮小、タイに

データ&ドキュメント事業

754 億円

(前年同期比 3.7%↓)

ITイノベーション事業

137 億円

(前年同期比 4.1%↓)

ビジネスプロダクト事業

120 億円

(前年同期比 10.4%↓)

グローバル事業

55 億円

(前年同期比 16.5%↓)

おける政府系IDカード案件の期ずれなどに加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあり減収減益となりました。

紙と電子の二刀流に磨きをかける

現在、社会のさまざまな局面でDXの取り組みが本格化し、ペーパーレス化やデジタル化などの構造的な変化が加速しています。デジタルの通知を求める人が増加する半面、紙の通知を必要とする人も一定数いらっしゃいます。このような状況を踏まえ、当社グループでは、当期の経営目標の達成および多様化するニーズに応え社会へ貢献していくことを目指して、さまざまな施策を進めています。

デジタルハイブリッドの取り組みをさらに強化するため、2020年6月には業界横断型の共通手続きプラットフォーム「AIRPOST（エアポスト）」のサービス提供を開始しました。今後はサービスの拡充と利用の拡大を図ります。また、紙の通知物との組み合わせを視野に入れたメッセージ配信サービス「EngagePlus（エンゲージプラス）」の本格展開を加速していきます。ユーザー目線に立った簡便さと堅牢な情報セキュリティを両立するこれらのソリューションは、非対面による確実・迅速な情報のやり取りが求められる現在の社会トレンドに合致するものです。

構造改革は、いよいよ効果創出フェーズへと移行します。袋井工場の稼働による生産活動の効率化や、BPOの事業運営体制の最適化による効果を着実に取り込むほか、ITシステ

ムの活用による業務プロセスの抜本的な見直しを進めます。

フロンティア領域においては、企業や研究機関とのオープンイノベーションを活用し、社会的課題の解決に向けた新しいビジネスの創出・育成に挑戦するとともに、海外市場領域においては、ASEANを中心にデジタルハイブリッドのソリューション展開を加速していきます。

近年、企業は全てのステークホルダーに目を向けるべきという考え方が世界的なトレンドとなっています。国連サミットで採択されたSDGs*の「誰一人取り残さない」という考え方は、当社グループの経営信条である「三益一如」に通じます。企業と生活者の間の情報伝達をフィジカルとデジタルの両面から支える「人にやさしいデジタル化」の実現を通して、ステークホルダーの皆さまの期待に応えていきます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

* SDGs(Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標): 2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成される。

2020年 12月
代表取締役社長

坂田 甲一

RFIDによる

完成車物流改善プロジェクト

TOPPAN FORMS

×



TOYOTA



IoTで車両物流の改善に取り組んでいるトヨタ自動車株式会社さま。当社はRFID活用の面から開発に携わっています。今回は、当社が参画した「完成車物流業務改革」と、「完成車自動読み取りシステム」導入の2つのプロジェクトについてご紹介します。

RFIDで完成車の物流を管理

トヨタ自動車さまでは、完成した車を工場から販売店に届けるまでの完成車物流において、「物流管理票」というものを使用しています。各車に貼り付けられた物流管理票にはRFIDが搭載されており、物流ルートの各拠点でRFIDに記録された情報を読み取ることで、その場での作業指示が確認できるようになっています。また、車両一台一台がどの拠点のどの場所にあるかの一元管理が可能となっており、車両の状況を見える化しています。



完成車に貼られた
RFID付き物流管理票

「完成車物流業務改革」プロジェクトに当社が参画

RFIDの活用による車両物流の改善に向けた取り組みが始まったのは2013年です。「完成車物流業務改革」プロジェクトにおいて、物流管理票へのRFIDの搭載およびスマートフォンとの連携による効率化が検討され、当社にお声がけいただきました。

当社が担当したのは、物流管理票の帳票とRFIDの製造・搭載ですが、そこにはさまざまな課題がありました。まず、車両は世界各国に輸送されるため、マイナス40度～80度という極寒から酷暑、風雨にさらされる環境下にも耐え得る必要があります。また、「不良品は1万枚に1点以下」というこれまでにない非常に厳しい条件もありました。しかし、このような課題を一つ一つクリアしていくことが、最終的なプロジェクトの成功につながりました。

トヨタ自動車さまでは

車両物流の改善への活用を促進!

各拠点で
RFIDを読み取り、
車両の状況を見える化



読み取り

工場

在庫
センター

港

販売店

各拠点でRFIDを読み取ることで
作業指示が得られるとともに、
車両一台一台がどの拠点のどの場所に
あるか、一元管理が可能

今後の展開

船積みの進捗状況を自動で取得

トヨタ自動車さまの輸送の重要拠点である、愛知県の名港センターにおいて「完成車自動読み取りシステム」の導入に向けた取り組みが進んでいます。同港からは完成車を世界各国に輸送しており、トヨタ自動車さま専用の埠頭があります。

現在のスマートフォンを使った運用では、人が車両に近づいてRFIDを読み取っています。しかし、遠隔から読み取れるというRFIDの最大のメリットを活かすために、このプロジェクトでは栈橋にRFIDリーダーを設置し、船に積み込む際に自動

で読み取ることができるシステムの開発を進めています。強風にさらされるなど厳しい環境での試みのため課題はありますが、成功すれば物流上のさまざまな場所での自動化にも応用することが可能です。当社は今年から参画し、開発に携わっており、車両物流の一層の効率化に貢献できるように挑戦し続けています。



船に積み込む際に物流管理票を自動で読み取り

RFID

(Radio Frequency Identification)

とは?

ICタグやICラベルに記録された情報を電波などで非接触に読み取る技術です。複数のICタグの情報を一括で読み取ることや、読み取り機から距離があるICタグを読み取ることなどが可能で、物流や資産管理などの現場において活用が進んでいます。



Topic 1

「SOMPO サステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に初選定

当社は、SOMPOアセットマネジメント株式会社が運用する「SOMPOサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に初めて選定されました。同インデックスは、ESG（環境・社会・ガバナンス）に優れる約300銘柄で構成されるアクティブ・インデックスです。

当社は、経営信条である「三益一如」のもと、社会課題の解決や環境の持続可能性への配慮を前提に新規事業の創出や研究開発を行ってきました。今後もこれまでに培ってきた情報に関連する技術や情報セキュリティ基盤を活かし、デジタルハイブリッド企業としてSDGsの達成に貢献していきます。

2020



Sompo Sustainability Index



Topic 2

「健康経営優良法人2020 ホワイト500」に4年連続で認定

当社は、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2020 ホワイト500」に認定されました。同制度は、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人を顕彰するものです。

多様な人材が生き生きと働き続けることができる基盤づくりのため、働き方改革、健康保持・増進活動を通じて健康経営を推進しており、施策ごとの目標値（KPI）を設定し、達成に向けて取り組んでいます。



2020

健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

■ 健康経営の目標値 (KPI)

生活習慣病対策（該当する人の割合）	2019年度 ▶▶▶	2020年度 ▶▶▶	2023年度 ▶▶▶	2025年度
肥満	29.1%	27.0%	26.0%	25.0%
高血圧リスク	13.1%	12.5%	12.0%	11.0%
糖尿病リスク	8.9%	8.7%	8.5%	8.0%
脂質リスク	36.4%	34.5%	33.0%	31.5%
メンタルヘルス対策				
残業時間（月平均）	22.0h	21.5h	21.0h	20.0h
禁煙対策				
喫煙率	23.0%	20.0%	19.0%	17.5%
家族の健康診断				
家族特定健診受診率 ※35歳以上	82.9%	83.0%	85.0%	88.0%

コロナ危機における当社グループの取り組み

当社グループでは、代表取締役社長を本部長とする「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、感染症対策と事業継続の両立を図っています。また、コロナ危機に対応した新たな取り組みも行っています。

■ フロントピア本部 「新しい生活様式」の課題をビジネスの種に

新事業創出を担うフロントピア本部では、アフターコロナに向けた事業立案を目的に「新しい生活様式」の体験に基づくアイデア創出も行っています。

例えばオンライン会議を実際に導入してみると、音声認識で話者を区別し要約まで自動生成できれば業務効率化につながるのではないかというアイデアが生まれ、AIを活用した実験を行いました。他にもさまざまなアイデアが出てきており、課題を見つけながら新たなビジネスの開拓に取り組んでいます。

■ トスコ 「体表温スクリーニングシステム」を自社開発

当社グループでシステム開発を行う株式会社トスコは、「体表温スクリーニングシステム」を開発しました。

サーモグラフィカメラで体表面温度を検知し、規定温度以上の場合には警告を表示する機能に加え、入退館カードをタッチすることで個人の測定結果を記録し、日々の変化を表示させることや、熱がある場合に上長や管理者にメール送信することもできます。岡山県にあるトスコ本社で活用しており、今後は一般企業や不特定多数が出入りする場所への提供に取り組んでいく予定です。



設置した同システムと企画・開発担当者

強みを活かした社会貢献

スポーツ向けフェイスシールドを製造

静岡県にある袋井工場では、カード製品の型抜き技術を活かし、風や揺れに強いスポーツ向けフェイスシールドを製造しました。袋井市内のマラソン大会で参加賞として配られ、その製造の様子が静岡放送で放映されました。今後も地域に根付き、信頼される工場を目指してさまざまな取り組みを行っていきます。



SBSテレビ(静岡放送)「ORANGE」の取材

連結財務諸表（要旨）

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科 目	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産	105,154	101,855
固定資産	113,805	114,375
有形固定資産	82,045	80,047
無形固定資産	3,737	4,234
投資その他の資産	28,022	30,093
資産合計	218,959	216,230
負債の部		
流動負債	45,820	42,895
固定負債	4,182	3,881
負債合計	50,003	46,776
純資産の部		
株主資本	166,139	165,649
資本金	11,750	11,750
資本剰余金	9,178	9,178
利益剰余金	150,127	149,638
自己株式	△4,916	△4,916
その他の包括利益累計額	△68	940
非支配株主持分	2,885	2,864
純資産合計	168,956	169,454
負債純資産合計	218,959	216,230

連結損益計算書

（単位：百万円）

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (2019年4月1日～ 2019年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2020年4月1日～ 2020年9月30日)
売上高	112,827	106,814
売上原価	87,418	82,151
売上総利益	25,409	24,662
販売費及び一般管理費	21,190	20,627
営業利益	4,218	4,034
営業外収益	381	441
営業外費用	385	569
経常利益	4,214	3,907
特別利益	0	50
特別損失	340	2,052
税金等調整前四半期純利益	3,875	1,905
法人税等合計	1,671	935
非支配株主に帰属する四半期純利益	74	72
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,128	897

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科 目	前第2四半期 連結累計期間 (2019年4月1日～ 2019年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (2020年4月1日～ 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,366	3,599
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,192	△5,488
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,748	△1,628
現金及び現金同等物の期首残高	59,177	48,808
現金及び現金同等物の 四半期末残高	54,509	45,244

会社情報 / 株式情報

会社概要 (2020年9月30日現在)

商号	トッパン・フォームズ株式会社
英文名	TOPPAN FORMS CO., LTD.
本店所在地	東京都港区東新橋一丁目7番3号
電話	(03) 6253-6000 (ダイヤルイン案内)
設立	昭和30年5月2日
資本金	117億5,000万円
発行済株式総数	115,000,000株

役員 (2020年9月30日現在)

代表取締役会長	伊東 厚
代表取締役社長	坂田 甲一
取締役副社長	亀山 明
専務取締役	岡田 康宏
常務取締役	福島 啓太郎
常務取締役	添田 秀樹
取締役	金子 眞吾
取締役(社外)	ルディー 和子
取締役(社外)	天野 秀樹
取締役(社外)	澁谷 裕以
取締役(社外)	小久江 晴子
取締役	井上 英雄
常勤監査役	今村 眞二
監査役(社外)	木下 徳明
監査役(社外)	佐久間 國雄
監査役(社外)	尾畑 亜紀子

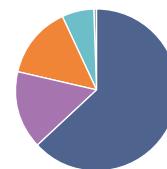
株主(上位10名)・株式分布状況 (2020年9月30日現在)

株主名	当社への出資状況	
	株式数 (千株)	持株比率 (%)
凸版印刷株式会社	67,419	60.7
株式会社日本カストディ銀行	9,440	8.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	6,256	5.6
トッパンフォームズグループ従業員持株会	2,035	1.8
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/JANUS HENDERSON HORIZON FUND	1,520	1.4
MSIP CLIENT SECURITIES	1,192	1.1
ML PRO SEGREGATION ACCOUNT	859	0.8
J.P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMSP RE CLIENT ASSETS-SETT ACCT	855	0.8
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	817	0.7
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	799	0.7

注1. 当社は自己株式4,003千株を保有しておりますが、上記の表から除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

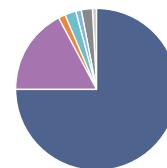
所有者別株式分布状況

■ その他法人	72,532千株 (63.1%)
■ 金融機関	18,015千株 (15.7%)
■ 外国法人等	16,494千株 (14.3%)
■ 個人・その他	7,575千株 (6.6%)
■ 金融商品取引業者	382千株 (0.3%)



所有株数別株式分布状況

■ 100万株以上	86,362千株 (75.1%)
■ 10万株以上	19,912千株 (17.3%)
■ 5万株以上	1,533千株 (1.3%)
■ 1万株以上	2,640千株 (2.3%)
■ 5千株以上	1,127千株 (1.0%)
■ 1千株以上	2,496千株 (2.2%)
■ 1千株未満	927千株 (0.8%)



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主確定基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当を行う場合 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
公告方法	電子公告により、当社ホームページ (https://www.toppan-f.co.jp/) に掲載いたします。 なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人・ 特別口座管理機関 同連絡先	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電 話： 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先： 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
1単元の株式の数	100株
上場金融商品取引所	東京証券取引所
証券コード	7862

ご注意

1. 株主さまの住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則として口座を開設されている証券会社などが受付窓口となります。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行株式会社）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。郵便物などの発送・返戻、未受領の配当金などにつきましては三菱UFJ信託銀行株式会社で承ります。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社で受付いたします。
3. 特別口座に記録された株式を市場で売却する場合は、特別口座から直接売却することができませんので、証券会社などの口座に振り替える必要がございます。



Webサイトでも情報を開示しています

当社コーポレートサイト「IR情報」では、決算短信や決算説明会資料の掲載をはじめ、経営方針や経営戦略、各種お知らせなどを幅広く発信いたします。財務情報や事業内容などについての詳細はWebサイトをご参照ください。

URL <https://www.toppan-f.co.jp/ir/>



『トッパンフォームズ 統合報告書2020』を発行しました

株主・投資家の皆さまをはじめとする、幅広いステークホルダーの方々と信頼関係を構築していくためのコミュニケーションツールとして、統合報告書を制作しました。当社が目指す姿と、その実現のための強み、戦略、基盤をご説明しています。

URL [URL: https://www.toppan-f.co.jp/ir/annual.html](https://www.toppan-f.co.jp/ir/annual.html)

トッパン・フォームズ株式会社

本店 〒105-8311 東京都港区東新橋一丁目7番3号
<https://www.toppan-f.co.jp/>

みんなの文字®

©TOPPANFORMS 2020 1
COM20018-2011N-066